

Mamiya

Vol.
8
2004

AUTUMN/WINTER

Gallery

撮影 近藤 辰郎



第9回 MCCフォトコンテスト 入賞作品



総評

早いものでMCCフォトコンテストも9回目になりました。入賞作品のレベルは回を重ねるごとに高くなってきておりますが、応募作品の中には、被写体や狙いは良かったものの、表現の技術という点で、いま一つ工夫をしていただきたいものも少なくありませんでした。

良い写真を撮る為の要素はいくつかあります。

まず第一に、はっきりした撮影意図を持ち適切なフレーミングをとる事です。また被写体の高さや向きに合わせてカメラポジションとアングルを決定します。レンズ特性を生かし、遠近感を誇張したり逆に省略するレンズワークも重要です。そしてイメージに合わせて露出をハイキーにするかローキーにするか適正にするか、またパンフォーカスにするかボケ狙いにするかで絞り値を決定します。撮影時間帯による色温度の違いや光の量を考慮できればベストです。

色々と注文を付けましたが、これらの事に十分気を配って撮影し、更なるステップアップに繋がられることを期待しております。

日本写真家協会会員 原 弘男

金賞

『投影』 前田 吉之助(東京)

モノトーンの画面から、静寂さとともに神々しさが伝わってくるような、まさしく霊峰富士にふさわしい作品です。残照の淡いピンクの雲がまるで天上界と下界の接点のように感じられ、思わず魅きつけられてしまいました。

RZ67プロ Z110mmF2.8 f16 1分 E100VS UV







銀賞
『寸光』 中田 友一(栃木)

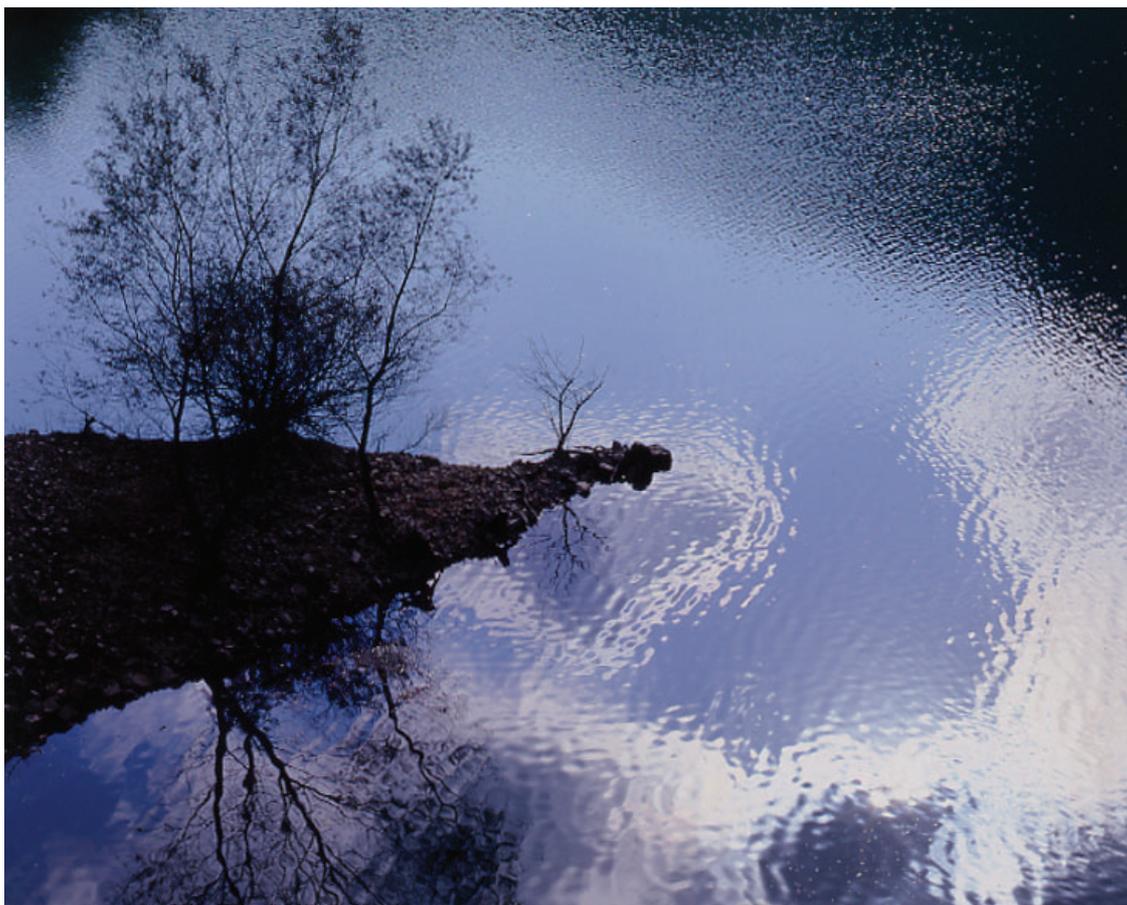
自然というものは時としてこんな面白いアートを作りだす芸術家なんですね。これを見つけた作者のカメラアイには感心しました。光の具合や黒くつぶした背景も効果的です。
RZ67プロ Z180mmF4.5W f45 2秒 RVP



銀賞
『小野川湖に光さす』 桃井 光子郎(神奈川)

光線状態と特に雪の状況がよかったと思います。隅々までしっかりとピントが合っていて、柔らかい新雪の質感がよく表現されています。中判カメラ“マミヤ7”ならではの真骨頂、その描写力をうまく生かしています。

マミヤ7Ⅱ N65mmF4L f22 オート RVP100

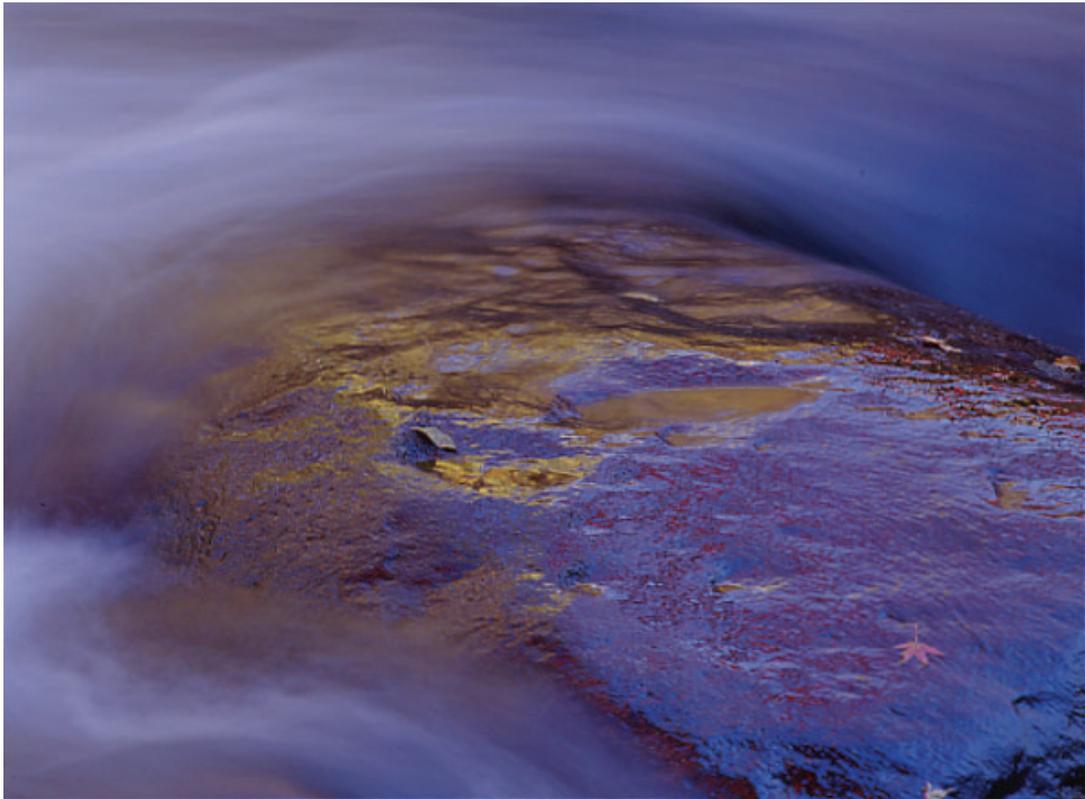


銅賞

『幻想の水面』 鈴木 弘己(静岡)

雲の動きをうまく計算しているので、さざ波のパターンがたいへん面白く写っています。異次元
と言うと大げさかもしれませんが、どこか不思議な空間を感じる作品に仕上げられています。

RZ67プロII Z150mmF3.5W f22 1/15秒 RVP



銅賞
『秋 映』 戸塚 勇(埼玉)

映り込みの色が独特で、特に金色がきれいにれているのには驚きました。紅葉と空の色、岩や水、色温度などいろいろな要素が微妙にミックスし、この作品に結実しています。

645プロTL C210mmF4N f16 オート RVP PL



銅賞
『早春の大雪』 川野 豊彦(広島)

紅梅と雪の鮮やかな色のコントラストがきれいです。絶好のチャンスをとらえているだけに、降雪の描写や構図にもう一工夫欲しい所です。一段早いシャッタースピードで撮影された方が降る雪の雰囲気が出たかも知れません。

645プロTL C55-110mmF4.5N f11 1/30秒 RVP100



入選
『花渦鏡演』 佐藤 進(東京)

不規則な渦巻き模様が面白いですね。画面上部を岸ギリギリでカットすると現実感が薄れてより強いイメージ表現ができたと思います。またピントを中心より少し手前に合わせると深度が深くなってシャープ感が増してきます。

645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f32 オート+1.0EV補正 RVP F PL



入選
『秋 景』 松永 功(埼玉)

超広角レンズで見上げる撮り方はいわば定番ですが、この作品の逆光に透けた紅葉の美しさは格別です。左の幹をカットすると2本の木のフォルムがより強調されるので、縦位置で撮影されても良かったかも知れません。

645プロ C35mmF3.5N f22 オート RVP PL



入選
『青苔の流れ』 日野 安喜(東京)

キラキラと輝く流れの光跡がこの作品の面白さであり主題なので、周辺はもう少しカットした方がよいでしょう。マミヤ7のようなレンジファインダーカメラは一歩前へ出て撮影するのがフレーミングのコツです。

マミヤ7 N80mmF4L f16 1/8秒 E100VS



入選
『びわ湖の灯』 西村 浩一(兵庫)

古風な常夜灯にあかりが灯り、早朝の波一つない静かな湖面に朝焼け雲が映っている風景は、まるで江戸時代にタイムスリップしたようです。近江の名所図絵を見ているかのような独特な雰囲気を持った作品です。

645プロ C45mmF2.8N f16 1/15秒 EPP UV



入選 『いつもの冬』 早川 一三夫(愛知)

露出が最適な為、雪の質感などがよくでています。空が紺色に写っている事がこの作品のポイントの一つですが、これより遅い時間だと空が暗くなり立体感がなくなってしまいます。良い時間帯に撮影された、雰囲気のある作品です。

マミヤ7Ⅱ N50mmF4.5L f16 40秒 RDPⅢ



入選 『残照』 太田 秀男(長野)

残雪の様様と夕映えの美しさ。この狙いは大変良いのですが、月を意識しすぎたのでしょうか？ 空の分量が多く、熔岩の入れ方にやや無理があるような気がします。もう少し狭いレンズでポイントを決めて撮影されると良いでしょう。

RB67プロS KL65mmF4L f16 1秒 RVP



入選 『咲き競う』 林 吉孝(神奈川)

実際には明るく華やかな情景だと思いますが、ピントを浅く、露出をアンダーにしたことで作者のイメージの世界が表現されています。偏光フィルターは使わない方が水面の反映が増し画面に密度が出てさらに良くなったのではないのでしょうか。

RB67プロSゴールド C360mmF6.3 f6.3 1/30秒 EPP PL



入選
『水の輝石』 縣 信元(東京)

色温度が高いため水が青白く光り、まさに宝石のような美しさです。こうした造形写真では質感描写が重要なポイントなので、ピントはもう少し深い方がよかったです。

645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f22 オート RVP100



入選
『オオコマグラチョウ』 佐伯 保則(千葉)

標準レンズと中間リングでは被写体との距離が近くなり、難しい撮影だった事でしょう。この場合、120ミリ程度のマクロレンズを使用した方が被写体と適度に離れて撮れるので、レフ板やストロボなども使いやすくなりお勧めです。

645プロTL C80F1.9N f5.6 1/125秒 E100VS オート中間リングNo.3



Photo Contest 10

次回より、コンテストの内容が変わります。
応募要項をよくお読みになりご応募下さい。
第10回の応募期間は10月1日(金)～11月30日(火)です。
写真テーマは自由です。

蔵王・樹氷霧氷 撮影会コンテスト 入賞作品

総評

今回の撮影会は大方の予想に反して2日間とも天気が良く嬉しい誤算になりました。皆さんの日頃の行いがよほど良かったのでしょう。樹氷の状態も良く、コンテストに関しては同じ様な写真が集まってしまうのではと懸念しておりましたが、いざ拝見してみるとバラエティーに富んだ作品が集まり参加の皆さんの意気込みが伝わってきました。作品はオーソドックスな作風から大胆な作風まで多様で、一瞬のチャンスを抑えたり夕方まで粘り強くチャンスを待ったと思われる作品まで良い写真が多く、とても嬉しく感じました。ただ、あえて苦言を呈すならば、いつもの如くパンフォーカスにするのかアウトフォーカスにするのか曖昧な作品が多かった事。画面の隅々まで注意して見えていないのか、足跡やスキーの跡が入ってしまい作品を台無しにしている例が見受けられました。その点に注意して撮影するとワンランク上の作品を作る事ができるでしょう。

山岳写真家 花畑 日尚



金賞 『日なたぼっこ』 早川 一三夫(愛知)

写真としてはオーソドックスですが、樹氷の斜面や遠景の配分、その構図のとり方に安定感があり安心して見る事のできる作品です。同じ場所を狙った作品は多数ありましたが、構図、露出、ピント、どれを取ってもこの作品が抜き出ていました。

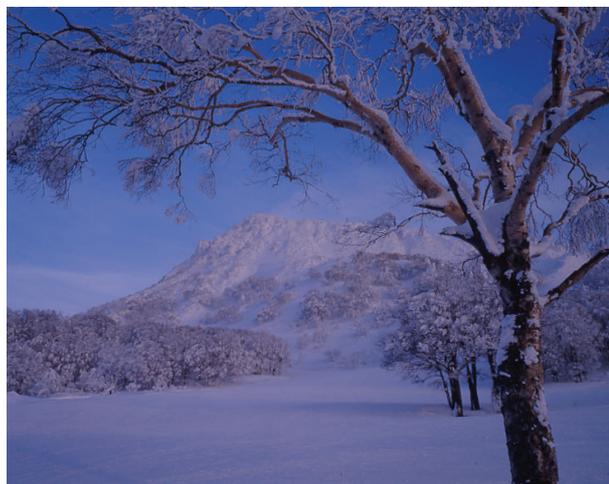
マミヤ7Ⅱ N210mmF8L f32 1/60秒 RVP100 L41



銀賞 『樹氷拂』 荒川 信利(埼玉)

画面の3分の1を占める樹氷を手前に覆いかぶさるように配置し、縦構図にすることで迫力を出しています。夕方の好機が来るまで待った粘りにも感服いたします。ピントもシャープでした。

645AFD AF55-110mmF4.5 f32 オート+0.7EV補正 E100VS PL



銅賞 『穏やかな日』 阿部 勝彦(宮城)

夕方の淡い色味を生かし、木を大きく取り入れて素直に撮影された作品です。何気なく撮っている様ですが木の枝が山のピークに掛からないよう、細心の注意を払って構図を決めている事が窺われます。それだけに遠景までピントが来ていない事が惜しまれます。F11との事ですがF16～22まで絞ってパンフォーカスにしていれば更に上位に入りました。

マミヤ7Ⅱ N43mmF4.5L f11 1/125秒 RVP



銅賞 『彩雲』 佐久間 弘(東京)

樹氷にばかり目が行きがちな所ですが、自然現象を良く観察して一瞬のチャンスを捉えています。露出をあと2分の1くらいアンダーにしたらリングがさらに浮き出たかもしれません。

マミヤプレス65mmF6.3 f22 1/100秒 RVPF UV



JTB賞 『涯しなく』 川又 正卓(東京)

正攻法な写真です。画面上部に樹氷の切れ目をうまく入れて全体に奥行きを出しています。ただ右上にスキーヤーが入ってしまったことが残念です。もう少しカメラを左に振っても良かったのではないのでしょうか。6×6の画面をフルに使い「気になる写真」に仕上がっています

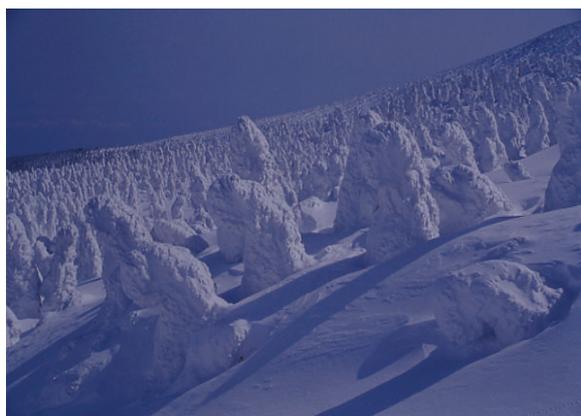
C330プロ 80mmF2.8 f32 1/30秒 RAPF



入選 『群像』 小野 望(神奈川)

オリジナルを拝見すると画面左上がフードの様なものでケラれています。応募プリントでは、これを隠す為に左側をトリミングしてありますが、左よりむしろ上部を切った方が画面に広がりが出たでしょう。思い切った構図が面白かっただけに惜しまれます。露出はもう少しオーバーにしても良かったかと思えます。

RZ67プロ Z100-200mmF5.2W f22 1/60秒 E100VS



入選 『ペンギン様樹氷群』 山崎 堅次(東京)

構図はオーソドックスですが、手前に大きめの樹氷を揃えて遠近感を出しています。私ならばもう少し前に出て更に樹氷を大きく強調させたでしょう。手前の影を中心に纏めてみても面白かったと思います。

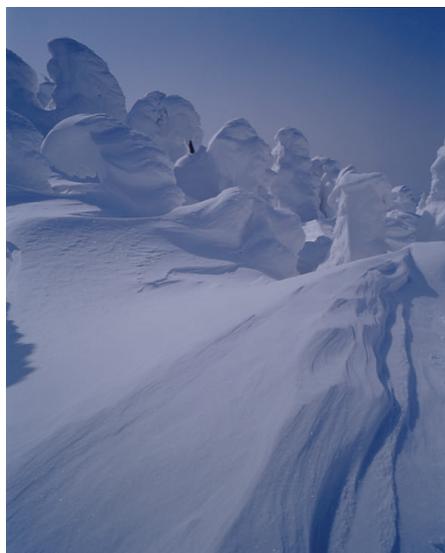
645プロ C55-110mmF4.5N f16 オートE100VS



入選 『祈り』 松野 敏秀(東京)

画面全体を淡いイメージに仕上げた、タイトル通りの雰囲気が漂う作品です。構図の切り取り方も良いのですが、もう少しだけ天部の空を切ったら「祈り」が強調されて良かったのではないのでしょうか。

645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f8 オート+0.7EV補正 RVP100



入選

『風雲の輝き』 飯塚 光男(東京)

山をよく撮り慣れた人の作品に見受けられます。樹氷を脇役にし手前のシュカブラを全面に出した所に新鮮味があります。もう少しだけカメラを右に振り左に入ってしまった影を消してシュカブラ中心にまとめたら、なお良かったかも知れません。

マミヤ7II N80mmF4L f22 1/125秒 EV100VS

入選 『巨獣』 佐藤 泰彦(東京)

樹氷のみをストレートに写した事で主題がはっきりして好感が持てます。露出も決まっていて、ルーペで拡大して見ても雪の質感がしっかりと出ています。手前にスキーの跡がありますが影に重なる所を選び目立たなくしています。どこか物語を感じさせる作品です。

645AFD AF55-110mmF4.5 f22 オート+0.7EV補正 RVP100 L37

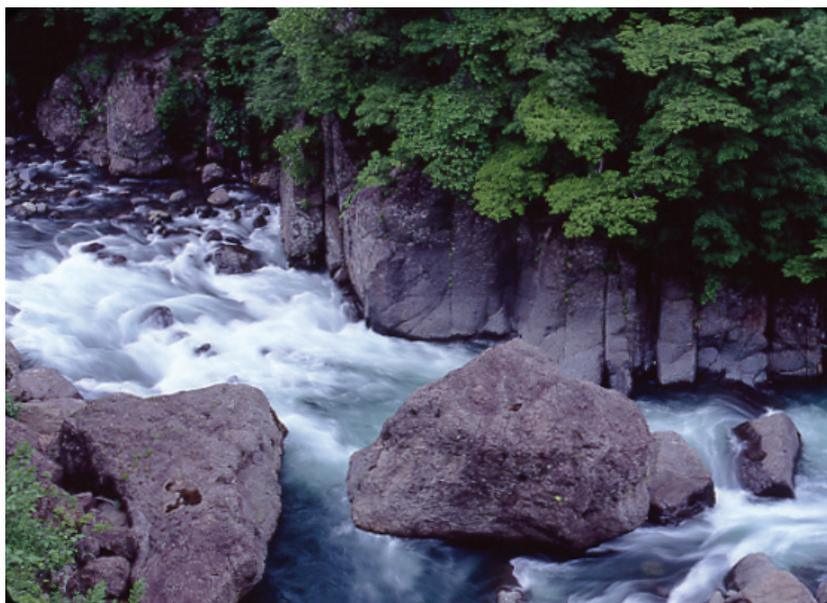


総評

今回の撮影地は日本海側の豪雪地のひとつとして知られている鍋倉山・関田峠や、秋山郷・中津川渓谷でした。コンテストでは、溪流の水のさわやかさや、残雪およびブナ林を上手に表現した作品が多くありました。これは、撮影会を重ねるごとに皆さんのカメラアイが少しずつ的確になり、撮影技術が上達してきているからにほかなりません。

しかし撮影は時として、条件に恵まれない場合があります。そんな時に、簡単にあきらめてしまうのではなく、謙虚に被写体を探しもとめる姿勢があつてこそ、もっとすばらしい作品をつくることができるでしょう。

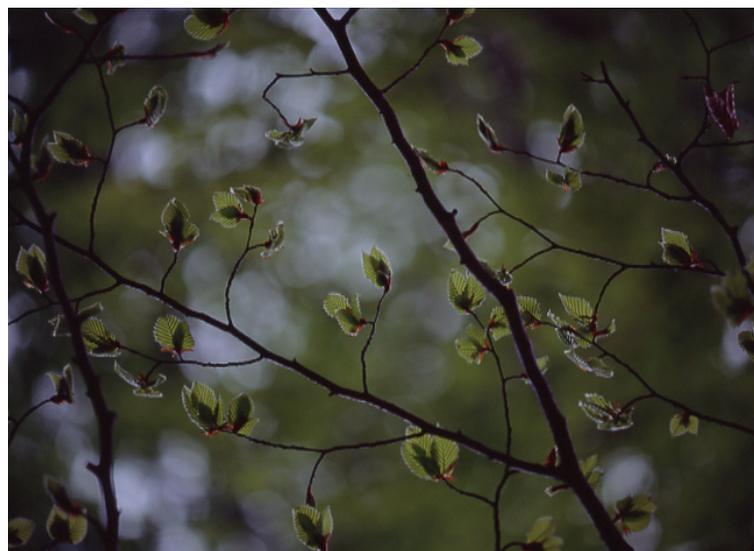
写真家 林 明輝



金賞 『初夏の流れ』 浦上 景一(東京)

曇天の中で中津川渓谷を撮影した作品ですが、溪流の中で二つの大きな岩がとてもよく配されています。また、水辺とのコントラストがうまく表現されていて、これらの岩が悠久の時を経て、上流から流れてきた様な錯覚をおこさせる内容の深い作品に仕上がっています。

645プロTL C55mmF2.8N f22 オート RVP100 UV



銀賞 『芽吹き』 行川 征子(埼玉)

人目につき難い小さな風景を切り取って、ブナの芽吹きとともに枝ぶりの良い所をうまく配してまとめています。また、独特のカメラアイを感じる作品で、ピントも素晴らしいです。

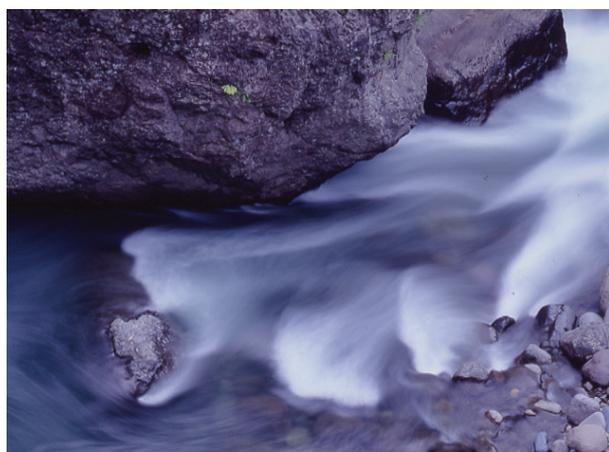
645AFD AF ULD105-210mmF4.5 f4.5 1/90秒 RVP100



銅賞 『春の雪魂』 飯塚 光男(東京)

残雪の後に、新緑のブナの森を写しこんだユニークなカメラアイが印象的でした。作者の素晴らしい感性が見受けられます。非常にめずらしい写真で、それ自体に価値があるといっても過言ではないでしょう。

645プロTL ULD C24mmF4 f22 1/4秒 E100VS



銅賞 『息吹き』 荒川 信利(埼玉)

岩場にちいさな木が芽吹いて、それをポイントにしてまわりに渓谷の模様を写しこんだ構図がダイナミックで、いつまで見ても飽きることのない奥深い作品です。中津川渓谷の水音が心に染み入ってくるような、余韻の残る作品です。

645AFD AF APO300mmF4.5 f32 2秒 RVP100



JTB賞

『溪流』 八坂 博孝(神奈川)

この作品は6×7判の細かな描写力を生かし、中津川渓谷の新緑の空気感がとてもよく表現されています。適度な光の強さになるタイミングを待って撮影しており、構図的にも手前の溪流と対岸の岩場や森を縦位置で撮影された事で、奥行きが効果的に表現されています。

RB67プロSD KL127mmF3.5L f22 1/8秒

RVP100

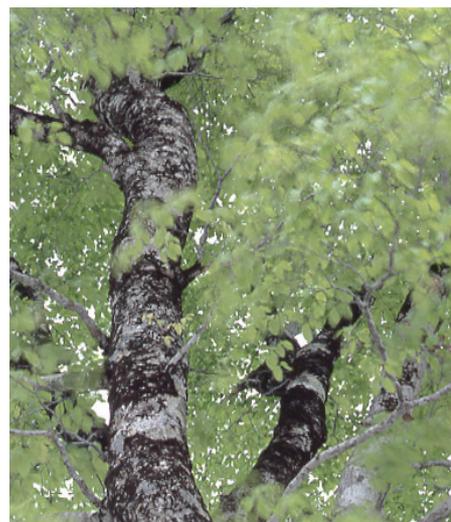
入選

『薫風の香り』 宮村 忠璋(千葉)

ブナの幹の紋様を生かしながら、幹のまわりで春風にそよぐブナの葉を絶妙のタイミングで捕らえた貴重な作品です。作者の俊敏な感性が見うけられました。

645スーパー C105-210mmF4.5N f22

オート RDPⅢ



入選 『厳冬に耐えた春』 瀬谷 金雄(茨城)

ブナの枝々の奥にある残雪が、あたかも豪雪地のブナの枝々のむこうに垣間見る空であるかのようなおもしろさを感じました。雪の重みに耐えてうねっているブナの枝が、前面の可憐な水芭蕉に彩られながら、春の力強さをうまく表現しています。

645プロ C80mmF1.9N f16 オート RVP100



入選 『根っ子』 佐久間 弘(東京)

作者の力量を感じさせる作品です。普段見落としがちなブナ林の一部で、背景に華やかな水芭蕉を入れながら、ブナの枝々をうまく作品にまとめあげています。派手ではないですが、とても内容の深い作品です。

マミヤプレス 65mmF6.3 f22 1/2秒 CS UV



入選 『星雲』 佐藤 進(東京)

渓谷の清流の光の反射を、星に見立てて表現しています。的確なシャッタースピードでとらえるため、数カット撮影した中から選んだものと思われま。溪流の流れを情緒豊かに表現するためには、佐藤さんのように撮影前のイメージづくりをすることがとても大事なのです。

645AFD AF ULD105-210mmF4.5 オート-1.0EV補正 1/60秒 E100VS



入選 『残雪』 磯崎 和夫(埼玉)

関田峠のブナ林の中で、右上から光がさしこみ、残雪が立体的に表現された作品です。日の光のにじみが一部に感じられ、ソフトフォーカス的な効果を出しています。春の淡い光の中で、新緑のブナ林の趣き深さがうまく表現されています。

RZ67プロ Z250mmF4.5 f22 オート E100VS

秋から初冬にかけての里山撮影取材

近藤 辰郎
こんどう たつろう



暑い夏が過ぎ、空気が澄む秋から初冬にかけてはカメラファンにとって絶好の季節となる。空は澄み、里山は紅葉が進み、高い山には新雪が降り朝夕の凜とした空気感は何とも気持ちが良い。このマミヤギャラリーに発表する作品は約20年前からロケーションハンティングしている、北アルプス北部にある里山である。北アルプス連峰の朝夕に変化する色調がおりなすグラデーションが美しく、低気圧やその他気象条件によって山稜に現れる雲の変化も面白い。また、秋から冬にかけては太陽が斜光線になるので山々に立体感が出てくる。使用しているカメラはマミヤ7Ⅱ。ニューマミヤ6、マミヤ6MF、マミヤ7と進化してきた6×7判レンジファインダーカメラだ。交換レンズやアクセサリシステムも豊富に揃っている。被写体に向かい撮影、そのファインダーとレンズの精度が高い事は現像したあとの結果で明白だ。

10月下旬から11月中旬にかけて私が長年撮影取材するこの地域は長野県北部通称東山と地元では呼ばれている所で、大町市から白馬町にかけて美麻村、大岡村、八坂村、中条村、そして高瀬ダムの奥にある湯保温泉付近であるが、前出の四ヶ村は車で移動しながらロケハンをして、ポイントをメモしておく。高瀬ダムまでは大町から七倉という所でタクシーを乗り継ぎあとは歩きで入る。

長野県の分県地図を確認してこの季節軽快なマミヤ7Ⅱを持ち、行ってみてはどうか。河川なども多くあり、朝夕に狙いをつけスタンバイするのも良いと思う。

1935年(昭和10年)9月東京牛込納戸町に生まれる。1965年(昭和40年)東京総合写真専門学校を経て、写真家横山宏氏のアシスタントをつとめる。その後、フリーランスの写真家として独立。北アルプス全域、中でも後立山連峰と槍・穂高連峰周辺・剣・立山の撮影を続ける。山岳・アウトドア雑誌、写真集に作品を発表。月刊「山と渓谷」誌の1973年(昭和48年)4月号～1976年(昭和51年)3月号までの3年間表紙写真撮影を担当、最初の1年間は自作自演の作品で、これ以降「ヒゲの写真家コンタツおじさん」と呼ばれるようになる。

著書に『日本の名峰19 白馬岳と後立山連峰』『コンタツおじさんの北アルプス案内(北部編・南部編)』『八ヶ岳連峰』(山と渓谷社)、『日本の山』(毎日新聞社)、『北アルプス』(実業の日本社)、『日本百岳』(小学館)他多数。1995年より主催している「コンタツフォトクラブ」には、年齢や職業を越えた幅広い人びとが集まっている。

写真展

- 1966(昭和41)年 山の素顔(個展) 駅ビルきんし町
- 1973(昭和48)年 スキー競技の世界(合同展) 富士フォトサロン
- 1977(昭和52)年～10年間 日本山岳写真集団展(合同展) 富士フォトサロン
- 1980(昭和55)年 北アルプス・冬山(個展) 京橋フォトギャラリー
- 1982(昭和57)年 山岳写真二人展(合同展) 六本木ギャラリーワイド
- 1986(昭和61)年～1か月間 アルプス一万尺展(個展) 北アルプス穂高岳山荘
- 1986(昭和61)年 山から帰ってきた写真展(個展) ミノルタフォトスペース [アルプス一万尺展]



『里山の紅葉と北アルプス』 マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f16 1/60秒 RVP

表紙『北アルプス・後立山連峰に新雪が降った朝』 マミヤ7Ⅱ N210mmF8L f16 1/8秒 PL RVP



『高瀬川上流の秋』 マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f11 1/30秒 RVP



『新雪が降りた里山から鹿島槍ヶ岳・五竜岳』 マミヤ7Ⅱ N65mmF4L f16 1/15秒 RVP

レンズの使い分けで表現の幅が広がる

講師 山崎 正路

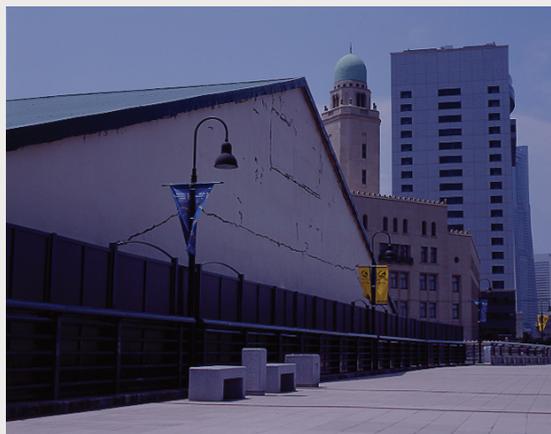
交換レンズは写真の目的や効果を考えて使うと表現が豊かになります。レンズは広い範囲を写し込んだり遠い景色を引き寄せたり、部分の拡大などの使い方があります。前景の取り入れ方や、ボケ味のコントロールなども交換レンズを使い分けることで、同じ場所からでも異なった表現が出来ます。レンズは大きく分けて標準レンズ、広角レンズ、望遠レンズ、マクロレンズ、などの単体レンズやズームレンズなどに分けることが出来ます。

カメラのフォーマットの違いや一眼レフタイプのカメラとレンジファインダータイプのカメラではミラーの有る無しでレンズの設計が変わります。

標準レンズ

自然な表現の描写、軽量コンパクトで比較的明るい高性能なレンズが揃っています。

マミヤ645AFDでは47度の写角を持つ80mmf2.8が、マミヤRZ67IIでは明るい変形ガウスタイプの110mmf2.8と、高解像度のレトロフォーカスタイプの90mmf3.5が標準レンズとして、マミヤ7IIはレンジファインダーカメラなのでコンパクトな80mmf4のやや広角ぎみのレンズが標準になっています。



RZプロII 110mm

広角レンズ

画角が広く、広い範囲を写し込むことが出来ます。インテリア写真や風景写真などでは被写界深度が深く、絞り込むことでパンフォーカスの写真も期待できます。AFの便利さばかりに頼らず、被写界深度目盛を生かした写真も効果的です。レンジファインダーのカメラではコンパクトな広角レンズが魅力です。



RZプロII 50mm

望遠レンズ

遠くの被写体を引き寄せる効果や重ね合わせの効果があります。一眼レフタイプのカメラでは浅い絞りを生かして背景をぼかすことも効果的です。35ミリカメラにくらべ中判カメラは被写界深度が狭いので、浅い絞りにより大きなボケ味に魅力があります。



RZプロII 350mm

ズームレンズ

1本のレンズで同じ位置から自由なフレーミングが出来ます、新しいレンズ技術やコーティングで単焦点に迫る性能になってきましたが、便利さだけに頼らず体を使いそれぞれの焦点距離を生かして写真を撮ることも大事です



645AFD ズーム105-210mm (105mm相当)



645AFD ズーム55-110mm (55mm相当)



645AFD ズーム105-210mm (210mm相当)

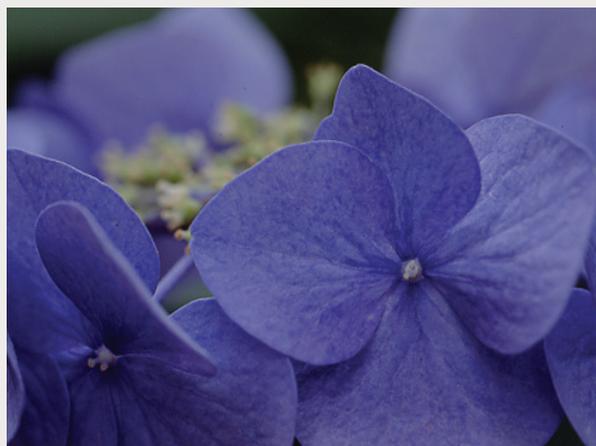
マクロレンズ

近接の描写にすぐれ花や昆虫など小さなものを大きく写すことが出来ます、もちろん風景など無限遠の撮影もこなす万能レンズです、645AFDの120mmF4マクロレンズはマニュアル仕様ですが等倍撮影も可能なレンズです。拡大率が35ミリカメラのマクロレンズと比べて低いので接写リングと組み合わせることでさらに拡大撮影が可能です。



標準レンズでの最短距離の撮影

645AFD 80mm



マクロレンズでの最短距離の撮影

645AFD 120mmマクロ

アポレンズ

RZ用250mmF4.5には2本のレンズがあります、ノーマルタイプはコンパクトでリーズナブル、アポタイプは遠景の風景写真に優れた超低分散レンズを使用し、色収差を補正し鮮鋭度に優れた高性能レンズです。



焦点距離の違いによる写真表現

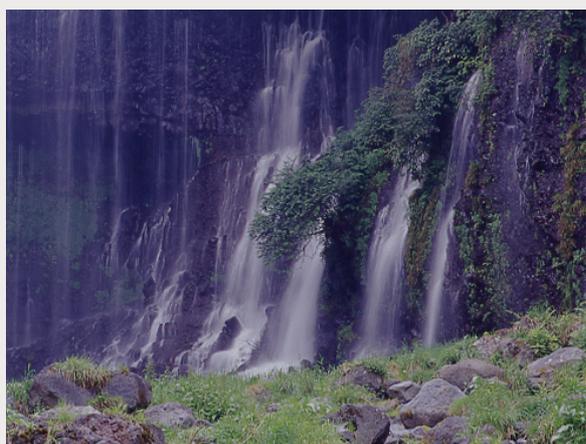
【作例】 同じ撮影場所で違う写真を撮る為には季節を変えたり天候を選んだりアングルを変えたりしますが、レンズを変えることは、写真を変える為には有効な手段の一つです。



645AFD 35mm



645AFD 80mm



645AFD 150mm



645AFD 300mm

広角と望遠

レンズは焦点距離により遠近感やボケた感じが変わり同じ被写体でも異なる写真を撮ることが出来ます。また近づいたり離れたりしてもレンズの効果が生きてきます。



645AFD 35mm



645AFD 210mm



645AFD 35mm

『広角』

広角レンズは同じレンズでも撮影距離やカメラアングルで遠近感が変化します。



645AFD 35mm

広角で写すことが多いインテリア写真では垂直を出すことが基本です。



645AFD 35mm



645AFD 210mm

『望遠』

望遠レンズは引き寄せ効果があります。遠近感が弱くなりパースも目立たなくなります。



RZ67 350mm

魚眼レンズ

歪曲収差を残した、対角魚眼レンズです。特殊レンズですが広い範囲を写し込むことや、独特の歪みが特徴で見なれた場所でも新たな発見をすることができます。



RZ67 37mm

カメラのタイプを変えたり、レンズを変えることで写真の表現が大きく広がります。自分の目的にあったカメラやレンズを見つけることが出来れば、きっと良い写真が撮れると思います、写真がマンネリ化したときなども普段と違うレンズやカメラを使うと新しい発見があります。

新製品紹介

Mamiya RZ67 PROFESSIONAL IID

世界中で愛用されている6×7cm判一眼レフカメラRZプロIIが撮影者とのさらなる一体感を求めて、デジタルバックとカメラ双方の動作最適化をはかった、マミヤデジタルバック通信システム(MSCE)を搭載いたしました。フィルムによる写真、デジタルによる画像、その双方をサポートするマミヤRZ67Pro IIDです。



NEW

メーカー希望小売価格
180,000円
税込価格189,000円

Metz mecablitz 54MZ-4

「ドイツの閃光」 Metz mecablitz ストロボ

SCA システムアダプターを使用することで、各カメラメーカーのストロボコントロール機能に対応しメーカー純正ストロボと同等の機能を発揮します。54MZ-4 はさらにデジタルカメラへの対応が広がりました。



仕様

形式：クリップオンタイプ ガイドナンバー：40(ISO100-50mm時)
照射角度：ズーム式、24~105mm(35mm判)
電源：単3アルカリ電池・4本(ニッケド充電池/ニッケル水素電池も使用可)
発光回数：約180回(フル発光時)
フィルム感度設定：ISO6~6400
マニュアル調光：フル発光~1/256光量(25段階)
その他：マルチ発光機能、モデリング発光機能
キャッチライト用補助発光部、AF用補助光
大きさ：幅75mm・高さ125mm・奥行き108mm(標準使用時)
重量：約480g(電池含まず)
メーカー希望小売価格 50,000円
税込価格52,500円

NEW

マミヤ協賛 撮影会&セミナー

マミヤカメラクラブ員に限らず、どなたでも参加できます。

山岳写真家 花畑日尚氏と尾瀬を歩く

主催：原の小屋
日時：2004年9月23日(木)~25日(土)二泊三日
講師：花畑日尚先生
参加費：31,000円
宿泊：原の小屋
問合せ/申込：0241-75-2038
備考：マミヤカメラの貸出しあり

違いがわかる!「大中判撮影会&写真塾」乗鞍岳篇

主催：大中判カメラ普及協会
日時：2004年10月2日(土)~4日(月)二泊三日
講師：花畑日尚先生
参加費：39,000円
宿泊：休暇村乗鞍高原
問合せ/申込：03-3222-6622
備考：大判/中判カメラの貸出しあり

紅葉の柵池高原 柵池自然園紅葉撮影会

主催：クラブツーリズムカルチャー旅行センター
日時：2004年10月7日(木)~10月8日(金)一泊二日
講師：花畑日尚先生
参加費：32,800円 宿泊：柵池ヒュッテ
問合せ/申込：03-5323-6990
備考：マミヤカメラの貸出しあり
コース番号：01939

紅葉の白駒池と原生林

主催：白駒荘
日時：2004年10月7日(木)~8日(金) 1泊2日
講師：秦達夫先生
参加費：新宿集合/26,250円 現地集合/18,900円
宿泊：白駒荘
問合せ：090-1549-0605(白駒荘 寺岡まで)
備考：マミヤカメラ貸し出しあり

初冬の八方尾根撮影会

主催：クラブツーリズムカルチャー旅行センター
日時：2004年11月2日(火)~11月3日(水)
講師：花畑日尚先生
参加費：31,800円 宿泊：八方池山荘
問合せ/申込：03-5323-6990
備考：マミヤカメラ貸し出しあり
コース番号：01829

中尾継次講師同行 新座・平林寺の紅葉を撮る

主催：クラブツーリズム大宮販売センター
日時：2004年11月18日(木)日帰り
講師：中尾継次先生
参加費：3,000円
問合せ/申込：048-649-8833・8844
備考：マミヤカメラ貸し出しあり
コース番号：E7199-306

写真家・原弘男先生と行く 白銀の「美ヶ原高原」撮影会

主催：クラブツーリズム大宮販売センター
日時：2005年1月26日(水)~1月27日(木)
講師：原弘男先生
参加費：32,980円 宿泊：玉ヶ頭ホテル
問合せ/申込：048-649-8833・8844
備考：マミヤカメラ貸し出しあり
コース番号：E7172-309

MCC インフォメーション

『新緑と残雪のブナ林・関田峠 撮影会』後記

2004年5月28日(金)～29日(土)

新潟と長野の県境はすべて山深く、冬は豪雪に鎖される幾つかの峠には広大なブナの森が広がっている。ブナの本々は雪解けと共に芽を吹き、またその根元が雪を解かし、下界が初夏の装いになった頃、遅い春を迎える。この季節は撮影に限らず訪れる人に優しく力強い生命力を見せてくれる。今回はそんなブナと残雪、初夏の溪流を求めて新潟から長野を横断撮影した。

新宿を立ち湯沢から清津峠を經由し秋山郷に続く中津川渓谷に入る。一件宿の温泉逆巻温泉に渡るために架けられている猿飛橋で渓谷の撮影。一週間前は雨で濁っていた水も、今日は清麗という言葉がぴったりの程きらきらと輝き流れている。強い日差しがあったが、橋の上から川面まで降りて撮影すると溪流の起こす風が心地よい。2度と同じ形がない水の飛沫を眺めていると時が経つのも忘れてしまう。場所を移動しながら渓谷と新緑の撮影を堪能し次の目的地、野ノ海池に向かう。野ノ海池は県境にある野ノ海峠の長野側にある池で、雪深い

為ほんの数日前にやっと通行可能になったばかりであった。池の入口から細い山道を少し行くと、雪の切れ目からやっと顔を出したばかりのかわいい水芭蕉が誰に見られるでもなく遅い春を謳歌していた。薄い夕日が野ノ海池の奥に沈み撮影終了。本日の宿泊地である野沢温泉で疲れを癒す。

翌朝は5:00に出発。今回のタイトルにもなっている関田峠に向かう。本来なら残雪の残る霧のブナ林に朝日が差す幻惑の風景を撮影する予定であったが、雪解けが早く雪が少ない。それでも斜光となりブナ林に入り込んでくる朝日を捉えながら撮影する。朝食をおにぎりで済ませ昨日に引き続き野ノ海池に向かう。本日撮影するポイントは昨日の場所より少し新潟側に入った所で残雪が多く、水芭蕉や小さな溪など変化に富んでいて目移りがしてしまう。お昼までじっくりと撮影を楽しみ。撮影行程が終了した。

人にあまり知られていない絶景ポイントを毎回案内して頂ける林先生、疲れ知らず



で撮影を続けた参加者の皆さんお疲れ様でした。(吉)

MCC講師

林明輝写真展「森の瞬間」

- 富士フォトサロン東京(スペース1)
2004年11月26日(金)～12月2日(木)
- 韓国富士フォトサロン
2005年1月10日(月)～1月14日(金)
- 富士フォトギャラリー大阪
2005年1月20日(木)～1月26日(水)

マミヤカメラ
HPリニューアル

マミヤカメラのHPがリニューアルし内容も盛り沢山。オンラインクラブに登録すれば特典も付いて来ます。
<http://www.mamiya-op.co.jp>

マミヤカメラ
サービスセンター
ギャラリー情報

9月6日(月)から
マミヤカメラクラブ
「新緑と残雪のブナ林 関田峠撮影会」
コンテストの入賞作品展開催

東京サービスセンターギャラリーでは、マミヤカメラ愛用者のために作品発表の場としてスペースを無料でお貸し致します。お問合せ・お申し込みは担当 湯浅まで
TEL.048-858-4826

マミヤカメラクラブ撮影会予定

ススキ輝く三原山 大島撮影会

日程：2004年10月15日(金)～16日(土)
場所：伊豆大島
指導：川口邦雄先生
(日本山岳写真協会会長)
会費：竹芝出発 39,000円
熱海出発 38,000円
定員：40名

冬の富士 河口湖冬火花火撮影会

日程：2005年1月29日(土)～30日(日)
場所：富士五湖周辺
指導：小林義明先生
会費：未定
定員：40名

マミヤカメラクラブ
セミナー予定

神代植物公園
マクロ撮影会・セミナー

日程：2004年9月18日(土)
場所：神代植物公園/
フジフォトギャラリー調布
指導：原弘男先生
会費：5,000円
定員：25名

※年2回(2月末、8月末)発行の本誌マミヤギャラリーのインフォメーションコーナーにクラブ員の方で掲載したい情報がありましたらお寄せ下さい。(掲載についてはクラブ事務局で判断させていただきます)

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。
写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。
マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。
講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。
撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。
宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、ポイント券制度・修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金:1,050円(消費税込み)
会費:4,200円(消費税込み)2年会費
手続:入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

- 1.クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 2.ポイント券制度
製品購入時、雑誌掲載時、コンテスト入賞時、入会時、各種イベント参加時など各々にポイントが付きまします。このポイントを集めると素敵な商品と交換することができます。
- 3.修理代金の割引
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- 4.マミヤカメラクラブメール
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- 5.マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み、お問い合わせは
マミヤカメラクラブ事務局
TEL.048-858-4826



マミヤカメラ・サービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。
また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。
また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-3375-3701 FAX 03-3375-3703 営業時間 10:00～18:00
大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00～17:00
土、日、祝日は休業

感動が宝もの Mamiya-OP マミヤ・オーピー株式会社

本社 〒338-8501 埼玉県さいたま市桜区西振10-13-1

商品・修理に関するお問い合わせは、サービスセンターへご相談下さい。

東京サービスセンター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-5-6西新宿IKビル TEL 03-3375-3701
FAX 03-3375-3703
大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11西谷ビル TEL 06-6541-5631
FAX 06-6541-5769

インターネット《ホームページ》<http://www.mamiya-op.co.jp>



安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず使用説明書をよくお読みください。

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タック
カメラサービスセンター :〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目
TEL011-221-8507 FAX 011-232-3344
東北地区 MCプロテック :〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44森ビル202
TEL022-297-3846 FAX 022-297-3867
東海地区 山田テクニカルサービス :〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99
TEL0567-32-2708 FAX0567-32-3454
九州地区 山口カメラサービス :〒816-0097 福岡市博多区半道橋1-13-20
TEL092-451-0655 FAX 092-451-0655

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしていません。